

ひびぎ

No. 2

ドラム缶工業会会報



ドラム缶工業会理事長
安藤 成海
(日鐵ドラム株式会社代表取締役社長)

理事長就任にあたって

このたび、畑前理事長の後を受け理事長に就任いたしました。ドラム缶工業会発足40周年という年にバトンを引き継ぐこととなったわけではありますが、ときあたかも我が国経済全体が調整期を迎え、主要ユーザー業界も厳しい減産態勢を余儀なくされており、この影響がドラム缶需要にも色濃くあらわれてきつつあります。加えて、人手不足はますます重要問題化しつつあり、また環境問題も次第にドラム缶業界に影響を及ぼしつつあります。一方ではこの業界にも急速に国際化の波が押し寄せてくるなど、内外に課題が山積するこうしたときこそ、私どもは需要業界と緊密な連携を保ちつつ一致協力して難局の打開にあたらねばならぬと考えます。新理事長として、その責任の重大さに身の引き締まる思いであります。

しかしながらドラム缶及びペール缶の需要は、短期的には増減があるものの、長期的には国民経済の発展に歩調を合わせ、緩やかではあっても確実な増加基調を維持するものと確信しております。加えて、繰り返し使用が可能ならぬ廃棄後は鉄スクラップとして再資源化される「リサイクル優等生」としても今後は見直されてくるものと信じております。

こうした前向きな見通しを踏まえ、さらに業界の一層の発展を目指すために、私どもは今後次のような活動を展開していきたいと考えています。

その第1は国際化への対応体制の強化であります。国際化の進展を事実として受け止め、積極的に国際交流・協力を深めていくつもりであります。特に国際規格問題については、我が国ユーザー業界に及ぼす影響もあり、主張すべき点を主張しつつ徹底した議論を展開していく所存であります。

新役員紹介

理事長	安藤 成海 日鐵ドラム(株)代表取締役社長
副理事長	相川 正 東邦シートフレーム(株)代表取締役社長
同	入江 仁堂 新邦工業(株)代表取締役社長
常任理事	永井 潤 川鉄コンテナ(株)代表取締役社長
同	山口 哲夫 鋼管ドラム(株)代表取締役社長
同	近藤信一郎 (株)大阪製罐所代表取締役社長
同	前田 磯友 (株)前田製作所代表取締役
企画委員長	中川 義幸 日鐵ドラム(株)取締役総務部長
国際委員長	山口 哲夫 鋼管ドラム(株)代表取締役社長
業務委員長	吉本 洋司 鋼管ドラム(株)常務取締役
技術委員長	瀧澤 譲 川鉄コンテナ(株)取締役千葉工場長
ペール委員長	南部 茂郎 (株)前田製作所常務取締役
関西支部長	室賀 脩 鋼管ドラム(株)常務取締役

第2は技術開発・設備開発への取り組みであります。今後環境問題や人手不足問題に対処していくためにも、業界あげての技術開発・設備開発が不可欠であり、共同研究・開発を積極的に推進してその成果を上げていくことが工業会の使命であると考えております。

第3はドラム缶業界のイメージアップであります。品質や清浄度への厳しい要求に応えつつ物流機能の重要な部分を担っている「ドラム缶」に対して、社会一般のイメージは決して好意的なものとはいえません。正しい理解を促す広報活動を精力的に展開し、業界のイメージアップを図っていききたいと思います。

これら施策を効率的に進めるため、このたび工業会の組織の改正を行いました。この新しい組織をフルに回転させ、活発で存在感があり皆様から信頼されるドラム缶工業会に向けて力を尽くしてまいりますと存じますので、関係の方々の絶大なるご支援ご鞭撻をお願い申し上げる次第であります。

NOTE

クロームめっき口金に御用心！ ——ドラム缶の口金の選択について (その1)

液体用のドラム缶には、内容物を封じ込めるために口金が付いています。口金は缶の天板に固定されているフランジと、開けたり閉めたりするためのプラグとからなっています。

フランジは天板に巻締めて取付けるので、鋼のプレス成形品にめっき、またはめっきと塗装をしたものを使用するのが一般的です。

プラグは、フランジと同じく鋼のプレス成形品にめっき、またはめっきと塗装をしたものか、あるいは亜鉛合金ダイカスト製品を使用します。

鋼製のフランジとプラグに使われるめっきには、電気亜鉛めっきとクロームめっきがあります。

クロームめっき口金に問題が

ところで、この口金の種類の選択によって、いろいろと品質問題などが起こっているのので、ドラム缶工業会では、技術委員会に口金研究会を設けて、口金の適性の調査を行いました。その結果クロームめっき口金に問題が多いことがわかりました。

耐食性が発揮されにくい

クロームめっきは外観が美しいのと、耐食性が比較的強いために使われていますが、実は重大な弱点があります。

その一つは、耐食性に関するものです。フランジにおいては、天板と組み合わせる時の巻締め加工が塑性加工であり、一度引き延ばしてから縮めるために、めっき層の全周に小さなクラックが入ります。したがってめっき層の一体性はクラック部分で切れることになり、耐食性が発揮されないわけです。またその耐食性も、クロームめっきでなければならないというものは限られており、ごく一部の薬品で、純度が高く活性度が高い等の特別のケースにのみ、クロームめっきを必要とする程度です。

一方、口金研究会の調査によれば、クロームめっき口金を使用する大部分はユーザーにおいてもその理由がはっきりしておらず、どうやら外観の美麗さからの耐食性の期待が大きいようです。このことは、フランジとプラグの一方にクロームめっき、一方にユニクロめっき（電気亜鉛めっき）を使用している例が多いことから裏づけられます。

環境上の問題点

二つ目は、クロームめっきのめっき作業です。この作業の廃液には六価のクロームイオンを含むため、そのまま廃棄することが出来ません。したがって公害規制は厳しくなる一方であり、従来口金のクロームめっきを請負ってきためっき工場では、規制をクリアすることが困難になってきております。また部品形状に起因する作業の煩雑さ、注文ロットサイズの大きさ等から、大手のめっき工場に発注先を変更することも困難です。

その結果として、めっき膜厚のバラツキ等の品質不良、コストアップ、さらには数量確保の困難といった問題につながり、ドラム缶メーカーとして責任を持って使用できなくなることが懸念されます。

ユニクロめっきの優位性

これに反して、鋼製のフランジとプラグに電気亜鉛めっきを施した、いわゆるユニクロめっき品は、大部分のドラム缶充てん物に対して耐食性があり、めっき加工工程も安定しており、また特別な問題点も無いことから、一般的に使用できます。

* * *

これらの理由から、今後は特別な場合を除き、クロームめっきは使用しないで電気亜鉛めっきの使用を推奨することにしたいと思っておりますので、ユーザー各位のご理解をお願いします。



間接輸出が上昇

平成4年度第1・四半期（4～6月期）のドラム缶生産は、前年同期比1.1%減の8万9千276トン、出荷も同比1.2%減の8万9千180トンとなり、生産・出荷とも前年同期を下回った。

このうち、主力の200ℓ缶の出荷本数は、前年同期比2.2%減の308万本で、うち、間接輸出が423千本で、同比7.5%増となった。国内化学品需給のゆるみから、化学品の輸出が増えているためと思われる、出荷本数全体に占める間接輸出分は、13.7%で、前年同期と比べて1.2%上昇している。

また、ペール缶は、同比1.3%増の684万1千本であったが、缶種別の構成比は、ラグペール71.5%、バンドペール17.3%、タイトペールが11.2%となっている。

この出荷を、缶種別・用途別にみると表-1に示す通りである。

DATA FILE

表-1 平成4年度第1・四半期（4～6月）ドラム缶缶種別・用途別出荷本数

単位：千本

缶種	用途	石油	化学	塗料	食料品	その他	合計	前年同期比
		200 Q 缶	541	2,246	188	40	65	3,080
ペール		3,499	2,667	422		253	6,841	101.3
20 Q 缶		5	46	1			52	102.6
50 Q 缶		微	58				58	77.3
20 Q 缶		6	117				123	90.6
アス缶型		1	3				4	303.3
その他容量缶		2	223	微		2	227	100.2
亜鉄板鉛缶	200 Q		68	2	1	4	75	155.3
	その他		85				85	88.9
	小計		153	2	1	4	160	111.0
ステン缶	200 Q		2	5			7	148.3
	その他		3				3	122.4
	小計		5	5			10	141.1
合計		4,054	5,518	618	41	324	10,555	-
前年同期比		99.6	101.0	95.7	73.0	104.4	-	-
構成比		38.4	52.3	5.8	0.4	3.1	100	-

COLUMNS

9月に入って最高気温が出た今年の関東地方。
8月での降雨量が、たったの9㎜だった。荒川と利根川流域で水不足の不安があり、荒川では取水制限を実施することとなった。

不景気が手伝って、電力需要のピークを7・8月中に記録更新できなかつた電力会社は痛し痒しと言った処。
電力が余つたら、水が足りないと言つて。

ドライバーが飛び出したのにアイアンでしか攻めにくい、何処かのコースのロングホールのような。どうせパーは狙えない腕前なら仕方の無いところか？





協和容器株式会社

石油の発祥地、天然ガスを中心とした石油化学発展の基となった新潟で育った当社は、アスファルト、ロード等を充填する工業用木樽の生産から始まり、現在はロケット燃料の充填用ステンレスドラムを生産する鋼製ドラムの総合メーカーとして業界の一翼を担っております。

充填物の高度化、近年特に求められている公害対策対応等の開発、試作、商品化を求心した20ℓ～200ℓまでの特殊ドラム等ユーザーのニーズに沿った商品の生産、販売を行っております。原材料はNKKからの供給を受け、卓越した技術導入を得て、多様化した需要分野への商品開発、供給を指向しております。直近の開発商品として塗料の水溶性化に対応した無発錆、溝無しステンレスドラム、さらには化成品分野に対応した耐酸、耐アルカリ性能を具えたポリエチレン樹脂コーティングドラムを商品化させ業界の脚光を浴びております。



鋼管ドラム株式会社

当社は、NKK（日本鋼管）と（株）京極社（現 京極運輸商事）のドラム缶製造部門を分社化し、専業の子会社として、昭和36年に発足・その後生産販売を開始して30年を経過いたしました。

このほどフューチャービジョンを策定し、「トライザ21」と銘打ち、21世紀を狙った、新しい全社運動を展開し、スタートいたしました。

当社の事業コンセプトを「容器総合ビジネス」として200ℓドラムばかりでなく、お得意様のニーズに沿うべく、全ての容器に関するハード・ソフト両面の開発を目指しております。

いかなるご要望、ご叱正にもお応えする覚悟で進めてまいります。従来にもました、ご指導、ご鞭撻を、お願い申し上げます。



斎藤ドラム缶工業株式会社

当社は昭和7年、幕末に発生した生麦事件で有名な横浜・生麦の地に呱呱の声をあげて今年で60年。人間で言えば還暦を迎えました。現在は横浜工場と和歌山工場で200ℓドラムをメインに中小型缶を製造していますが、これに加えて200～20ℓまでのステンレスドラムも製造しています。このステンレスドラムの中でも

当社では「パンボトム」の商品名でフライパン状に成形した地板と胴を突合せ溶接した溝の無いドラムを製造し塗料、薬品、香料、化粧品、食品等の容器として繰り返し使用され好評を博しております。なおまた、朝鮮動乱を契機として燃料携行缶（ジープ缶）の製造にも着手し、現在も毎年防衛庁の需要に応えております。

おかげさまで創業60周年。

これからもドラム一筋でお客様のニーズにお応えします。

ドラム缶工業会

東京都中央区日本橋茅場町
3-2-10(鉄鋼会館3階)

TEL 03-3669-5141

FAX 03-3669-2969

ADK 秋田ドラム工業株式会社

秋田市土崎港北6-2-22 ☎ 0188-45-1105

O.S.K. 株式会社大阪製罐所

大阪市此花区島屋2-11-63 ☎ 06-466-4601

川鉄コンテナ株式会社

大阪市北区堂島浜2-1-29 ☎ 06-344-9711

協和容器株式会社

新潟市下木戸2-4-20 ☎ 025-274-0371

鋼管ドラム株式会社

東京都中央区銀座8-11-11 ☎ 03-3574-0711

斎藤ドラム缶工業株式会社

横浜市鶴見区生麦3-15-14 ☎ 045-521-3881

山陽ドラム缶工業株式会社

岡山県倉敷市中島1230 ☎ 0864-65-3680

新邦工業株式会社

東京都千代田区神田佐久間町3-27-3 ☎ 03-3861-5285

大同鉄器株式会社

尼崎市杭瀬南新町3-2-21 ☎ 06-488-2468

東邦シートフレーム株式会社

東京都中央区日本橋3-12-2 ☎ 03-3274-6212

株式会社長尾製缶所

和歌山県有田郡吉備町野田144 ☎ 0737-52-2591

株式会社新潟容器製作所

新潟市新崎386-7 ☎ 025-259-3201

日鐵ドラム株式会社

東京都中央区銀座1-7-10 ☎ 03-3562-0251

株式会社前田製作所

東京都港区新橋1-5-5 ☎ 03-3573-7101

森島金属工業株式会社

千葉県佐倉市大作2-5-5 ☎ 0434-98-3551

株式会社山本工作所

北九州市八幡東区大字枝光1950-10 ☎ 093-681-2431

株式会社ユニコン

大阪府高石市高砂2-7 ☎ 0722-68-0515

ひびき No.2 (平成4年9月28日発行)

発行人 ドラム缶工業会
専務理事 柴野 正裕

本誌は再生紙を使用しています。